

市長記者会見記録

日時：2023年11月17日（金）14時00分～14時15分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：令和5年第5回川崎市議会定例会議案等について（総務企画局・財政局）

<内容>

【議題】

《令和5年第5回川崎市議会定例会議案等について》

【司会】 ただいまから、市長記者会見を始めます。本日の議題は、令和5年第5回川崎市議会定例会議案等について、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いたします。

【市長】 令和5年第5回市議会定例会の準備が整い、11月27日月曜日招集ということで、本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は、条例14件、事件20件、補正予算2件、報告1件でございます。

今議会の主な議案といたしまして、議案第198号及び第199号は補正予算でございます。このうち、一般会計の補正予算の内訳といたしましては、まず、その1補正として、人事院勧告等を踏まえ、一般職及び特別職の給与と期末・勤勉手当などを増額するものでございます。

次に、その2補正として、認可保育所等の保育料の多子軽減制度への準備に対応するものや、市内事業者の年間を通した受注機会の確保のための道路維持補修事業の前倒しなどによります増額と、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う感染症対策の見直し等による不用額の減額によりまして、補正額は総額で32億円余を減額するものでございます。

なお、議案第164号の職員の給与に関する条例等の一部改正及び議案第198号の補正予算は、職員の期末・勤勉手当の支給に関することから、他の議案と分割し、先行議決をお願いするものでございます。

また、追加議案といたしまして、人権擁護委員の候補者の推薦の人事案件1件を提出する予定でございます。

私からは以上でございます。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました議題についての質疑応答に入ります。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いたします。

【t v k（幹事）】 テレビ神奈川です。補正予算についてなんですけれども、今回、

コロナの事業減額ということで、5類移行後のコロナ事業の整理がいったんついたのかなんていう感じもしましたが、市としてそちらの認識はいかがでしょうか。

【市長】 5類前と後ではその対応策が当然異なってくるので、その分の不用額が積み重ねるとこれぐらいあったという認識です。

【t v k (幹事)】 今までコロナ禍において、財源であったり人であったりをコロナ対策事業に取られていたかと思うんですけども、今後そういった事業を、人員だったり財産だったり、どのように活用していくかというのがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】 まず、コロナ対策、感染症対策とか、あるいは経済対策の主な財源が国庫がほとんどだったものですから、そういったものが少なくなってくるということであれば、事業の総額は低くなりますけれども、その分、それがなくなったから私どもが使える予算が増えているということにはなりませんので、引き続き厳しい財政状況だと考えています。

【t v k (幹事)】 ありがとうございます。

【神奈川 (幹事)】 幹事社からは以上です。各社、お願いします。

【司会】 議題に関する御質問は以上でよろしいでしょうか。それでは、こちらで議題に関する関係者は退室いたします。

【市政一般】

《(仮称)相模原市人権尊重のまちづくり条例について》

【司会】 それでは、引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきまして、幹事社各社の皆様、よろしく願いいたします。

【t v k (幹事)】 テレビ神奈川です。今日、相模原市で全員協議会におきまして、ヘイトスピーチ条例に関する概要が示されましたが、先行する川崎市としてどのように捉えているか、一言いただけますでしょうか。

【市長】 ごめんなさい。私、相模原市の概要みたいなものが分かっておりませんが、今の段階でコメントは差し控えさせていただきたいと思います。

【t v k (幹事)】 同じ県内の政令市が、内容については置いておいて、一つヘイト条例に向けて動きがあったということについてはいかがでしょうか。

【市長】 相模原も、恐らくヘイトということではなく、私も報道ベースでしか知りませんが、障害者の差別ということについても着眼されていると伺っています。そういった意味では、幅広く人権を守っていくことの趣旨の条例ができることは、そういう意識が広がっていること自体、いいことではないかとは思っております。

【t v k (幹事)】 ありがとうございます。

《浄水装置の導入について》

【神奈川 (幹事)】 神奈川新聞と申します。また、ろ過装置についてなんですけれども、上下水道局の調査なんですけれども、調査した職員の中には、今回問題になっている公園の整備事業に携わっていた職員が何人かいます。これは、事業の当事者が何年かたって、自分たちの仕事を調査するという状況になっているんですけれども、言うまでもなく調査というのは、客観性ですとか信用性が担保されなければいけないと思うんですけれども、そうしたものが担保されていない状況になっていると思います。こうした調査結果は受け入れることができないと思うんですけれども、そこで市長にお伺いしたいんですけれども、かつてこの事業に携わった人が調査をしているということは御存じでしたか。

【市長】 どういう形であれ、関わっているか関わっていないというよりも、局として責任を持った調査を行って、その結果が出ているということですから、特に課題とは思っておりません。

【神奈川 (幹事)】 先ほども言いましたように、客観性ですとか信用性の部分で少し問題があるのではないかとも思うんですけど、その点はいかがでしょうか。

【市長】 いや、これまでも御説明していたとおり、上下水道局としては、比較検討の上、適切なものを選び、そして導入に至ったということですから、そのことについて、何か疑念だとかを言われるところが正直、その入り口からよく分からないという形ですので、特にこれ以上の調査の必要も感じておりません。

【神奈川 (幹事)】 調査そのものに関しては、繰り返しになりますけれども、客観性ですとか信用性を担保する必要があると思うんですけれども、今回はそれが担保されていないんじゃないかと思うんですが。

【市長】 これまでの導入の経緯を含めて、議会での委員会での報告等々、行ってきていると思いますし、全ての、日々毎日やっている事業の一つでありますので、殊更に何かこれが問題のあるようなことだとは一切思っていないので、御質問の趣旨もよく分からないというぐらいです。

【神奈川 (幹事)】 分かりました。そうすると、調査を再びやるお考えはないですか。

【市長】 はい。この前も申し上げたとおり、ありません。

【神奈川 (幹事)】 分かりました。それから、少し話が変わるんですけれども、調査結果に関して、市議会の委員会では報告をしないと聞いているんですけれども、まず事務方に確認なんですけれども、それでよろしいでしょうか。

【上下水道局】 経営戦略・危機管理室担当課長でございます。今のところ、委員会での説明は特段予定してございません。

以上でございます。

【神奈川(幹事)】 議会に説明しないということなんですけれども、この問題は当初、議会でメモが明らかにされて、そういうところから始まっているので、調査結果を議会に説明しないのは筋が通らないようにも思うんですけれども、その点、市長のお考えを聞かせください。

【市長】 いや、報告しないというのは、別に言わないという話じゃなくて、質問されれば内容を答えるのは当然の話だと思うので、わざわざ取り上げて、事態を報告する程度のものではないという判断なのではないでしょうかというぐらいです。

【神奈川(幹事)】 分かりました。ありがとうございます。

幹事社から以上です。各社、お願いします。

《グリーンボンドの発行について》

【日経】 日経新聞です。川崎市グリーンボンド、個人向けのグリーンボンド、今日、発行条件が決まりました。グリーンボンドとしては初の個人向けということです。このタイミングで発行された狙いと、あと市民へのメッセージ、お願いできますか。

【市長】 御案内のように、川崎市が初めて政令指定都市としてグリーンボンドを発行したわけでありまして、それは機関投資家ということになっておりましたが、今回初めて個人向けにということで、市民の皆さんが直接グリーンボンドを買っていただくことによって、環境によい取組を市民が個人で市を応援してくださるという市民参加型の取組になると思っていまして、環境への取組って、自らの行動だとか消費だとかということでもあるかもしれませんが、こういう債券を買うという行為を通じて、さらによい環境に持っていこうというところに非常に意味があると思っています。

【日経】 ありがとうございます。

《BAD HOP (バッド・ホップ) について》

【東京】 東京新聞です。先日、BAD HOP (バッド・ホップ) の方と対談されたとお聞きしたんですけれども、それに対して旧ツイッターなどでは、市長が一番悪そうな顔しているとか、川崎市長が来るライブ最高とか川崎市長イケているとか、そういう様々な反応がある中で、やはりヒップホップというカルチャーに対する偏見みたいなものが今まであった中で、そういうメンバーが市役所を訪れて市長と対談した、市長が解散ライブを見に行くことを約束したということが結構大きなインパクトとしてファンの方々に受け入れられたのかなと感じたんですけれども、私の個人的な感覚

から言うと、市長、これまでもブレイキンの選手の方とかBMXに取り組んでいる人ともお会いされているので、その延長線にもあるような若者文化の支援というところなのかなみたいなこと、個人的には受け止めたんですけども、ヒップホップを愛されている方々にはまた新鮮な受け止められ方をしたのかなとも思うんですが、BAD HOPに対する市長の思いとかを伺えますでしょうか。

【市長】 まず、メンバー8人の中で7人が川崎出身で、ほぼ同窓生の人たちが多いという、本当に純粹川崎のようなことで、川崎のことをメッセージとして伝えている、地元川崎を強く意識しているグループが、まさにヒップホップでは歴史上初めてとなる東京ドーム公演を行うという、ある意味、偉業だと思いますけれども、それをなし得たことが純粹に素晴らしいことだと思っているのと同時に、非常に厳しい境遇の中で育った、あるいは体験をした方々があらゆる逆境を乗り越えて、自分の居場所だとか表現の方法を見つけたことによって自分なりの目標を達成する、その姿がまた地元還元されていくという、この姿がとても素晴らしいものだと私は感動しております。今回、2月で解散してしまうんですけども、引き続き若い人たちに夢を与え続けてもらいたいなと思っています。

【東京】 8月に音まちがとった川崎の御当地ソングの中でも、「Kawasaki Drift」が、上位には入らなかったんですけど、名前が挙がっていたという中で、「Kawasaki Drift」の歌詞に対して、今回市長の前でやるのかなみたいなことがツイッターなんかでも話題になっていたんですけど、あの歌詞についてはどういうふうに思われていますか。

【市長】 ネガティブに捉える方っていらっしゃると思うんですけども、僕は、川崎っていろんな側面を持っていて、きれいに美しくあるばかりが世の中ではないですし、いろんな表現、感じ方があって当然だし、彼らなりの表現の仕方、まちの愛し方ということなんだと僕は思っています。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。

それでは、本日の記者会見をこれで終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当